

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 西原 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	53人	国語B	53人
② 算数A	53人	算数B	53人
③ 理科	53人		

5 留意事項

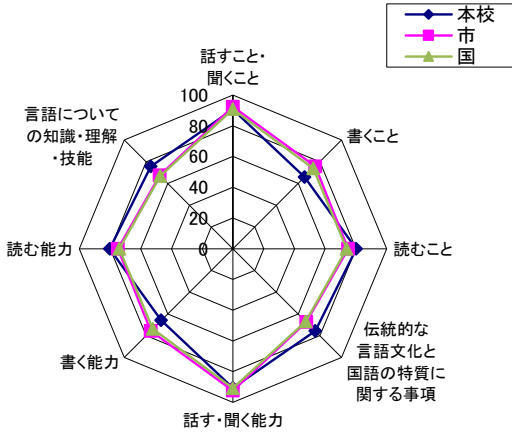
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

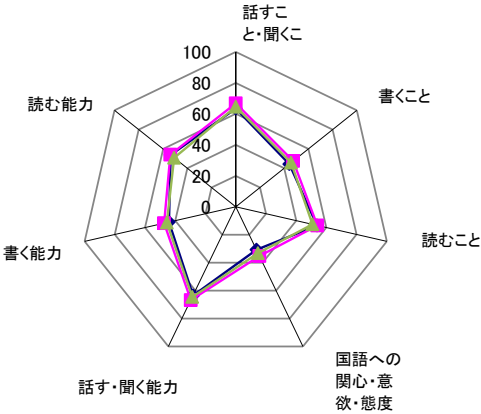
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	90.6	92.4	90.8
	書くこと	66.0	75.7	73.8
	読むこと	80.2	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.7	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	90.6	92.4	90.8
	書く能力	66.0	75.7	73.8
	読む能力	80.2	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	75.7	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	63.5	66.8	64.6
	書くこと	44.2	47.4	45.6
	読むこと	53.8	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	30.8	35.2	33.2
	話す・聞く能力	63.5	66.8	64.6
	書く能力	44.2	47.4	45.6
	読む能力	53.8	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

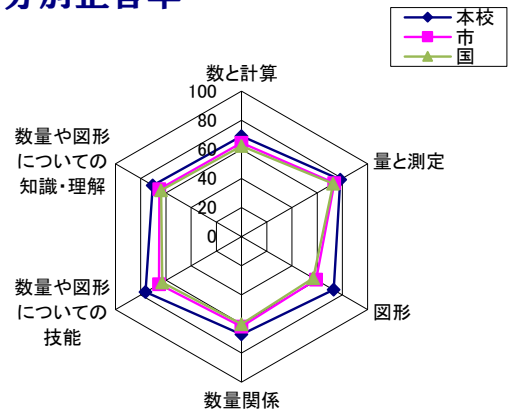
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、国語A、Bともに全国の平均正答率より低かった。 ○目的地への行き方の説明として適切なものを選ぶ設問での正答率は90%以上であった。 ●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる設問では、正答率が全国を下回った。	・相手や目的、場面、状況に応じて適切に説明の仕方を工夫できるよう、今後も指導を継続していく。 ・司会者、提案者、参加者それぞれの役割を捉え、話合いの目的に応じた進行や互いの発言の意図を理解することの大切さに気付くことができるよう、話合い活動の場を多く設定する。
書くこと	平均正答率は、国語A、Bともに全国の平均正答率より低かった。 ○説明文を読み、文章のくふうを読み取る問題では、県や全国の正答率を上回った。 ●条件を整えて、80字程度の作文を書くことに大きな課題がある。求められた内容を書き入れることができていないものや、必要な字数に達しないものが多かった。また、文章を読んで、概要をつかんだり他の言葉に言い換えたりすることに課題があった。	・条件を設けて作文を書く機会をつくり、求められた条件を理解して文章を書けるようにしていく。 ・「疑問を投げかける」「例を挙げる」「何かと比べる」「経験を述べる」など、文章の特徴をつかんで言葉で表すことができるように指導していく。
読むこと	平均正答率は、国語A、Bともに全国の平均正答率より高かった。 ○目的に応じて必要な情報を捉えることができるかどうかををみる問題では、正答率が高かった。 ●目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができるかどうかををみる問題では、課題が見られた。	・目的に応じて必要な情報を見つけて読む能力を育てるため、調べ学習などをする際には、調べる目的や事柄を明確にして取り組むよう今後とも継続して指導していく。 ・物語や伝記を読むときには、自分の経験や考えなどとの共通点や相違点を見つけ、心に残ったことについて自分の考えがまとめられるよう指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、全国の平均正答率より高かった。 ○慣用句の意味と使い方として適切なものを選択する設問や漢字を書く設問での正答率が高かった。 ●相手や場面に応じて適切に敬語を使う設問が、県や全国の平均より低く、課題が見られた。	・授業や行事の中で相手と自分との関係を意識しながら、尊敬語や謙譲語などが使えるような活動を行う。 ・敬語の役割や必要性を自覚し、日常生活の中で敬語を使うことに慣れるよう学校行事や来客があった時などに関連させて指導する。

宇都宮市立西原小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

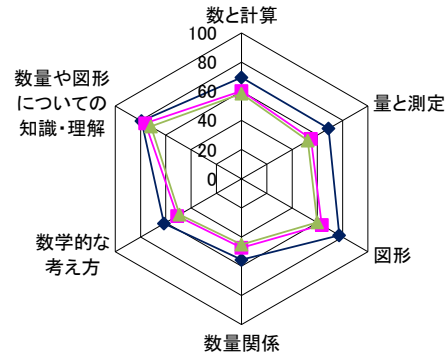
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	69.1	64.5	62.3
	量と測定	78.3	73.6	72.7
	図形	73.0	59.1	56.9
	数量関係	67.2	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	76.2	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	70.4	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	69.5	60.2	58.4
	量と測定	68.9	55.0	52.4
	図形	77.4	63.5	59.9
	数量関係	55.5	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	61.4	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	79.2	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

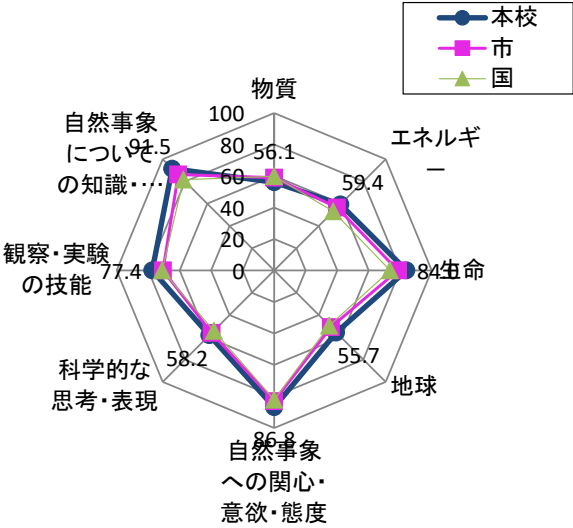
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、算数A、Bともに全国の平均正答率を上回っている。 ○どの設問も全国の平均正答率を上回る結果となっている。例えば、「針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ」問題では、正答率が84.9%と全国の正答率を18.2ポイント上回っている。 ●小数の除法の意味について理解しているかを問う問題では、全国の平均正答率より上回っているが、他の問題に比べ平均正答率が低く、課題がある。	・引き続き、基本的な計算の定着に向け、指導を継続していく。さらに習熟度学習の中で、児童の実態に応じ、応用問題に取り組むなど個に応じた指導の充実を図る。 ・立式の際に、なぜその式になるのかを話し合う活動を通して、式の意味を正しく理解できるように指導していく。
量と測定	平均正答率は、算数A、Bともに全国の平均正答率を上回っている。 ○特にB問題では、どの設問も全国の平均正答率を大きく上回る結果となっている。授業の中で、自分の考えをノートに書きまとめたり、グループや全体で考え方を比較・検討する話し合いを行ったりしていることがよい結果につながったと考えられる。	・引き続き、これまで行ってきた学習指導を継続していく。さらに習熟度学習の中で、児童の実態に応じた指導の充実を図っていく。 ・単位量あたりの大きさについては、図を利用して視覚的に場面を捉えさせるなど、計算処理に偏ることなく、場面の理解と数量関係の把握に重点をおいて指導にあたっていく。
図形	平均正答率は、算数A、Bともに全国の平均正答率を上回っている。 ○どの設問も全国の平均正答率を上回る結果となっている。例えば、「1つの点の周りに集まった角の大きさの和が360°であることを説明する」問題では、全国の平均正答率を27.3ポイント上回っている。	・今後も、図形の観察や作図する活動にじっくりと時間をかけ、それぞれの図形の特徴を理解させられるようにする。また、例えば合同な図形の作図では、必要な要素は何か、過剰な要素は何かを筋道を立てて考えることを大切に指導していく。
数量関係	平均正答率は、算数A、Bともに全国の平均正答率を上回っている。 ○どの設問も全国の平均正答率を上回る結果となっている。例えば、「示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ」問題では、全国の平均正答率を17.5ポイント上回っている。 ●グラフの読み取りに関する記述問題については、全国の平均正答率を上回っていたが、他の問題と比べ平均正答率が低く、課題がある。	・引き続き、割合の指導については、問題場面から基準量と比較量を正しく捉えることを大切にする。また、割合の意味については、「倍」という言葉を用いて素地となる経験を低学年から学習している。このことは、他の領域についてもいえることだが、低学年からそれぞれの学年の基礎的・基本的な学習内容の定着を今後も大切にしていく。 ・グラフの読み取りに関する問題については、グラフの特徴を複数の観点で捉えて情報を読み取ることができるように、読み取った情報について話し合う活動を今後も行っていく。

宇都宮市立西原小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	56.1	59.0	59.8
	エネルギー	59.4	56.4	53.1
	生命	84.0	78.6	73.6
	地球	55.7	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	86.8	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	58.2	56.1	54.1
	観察・実験の技能	77.4	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	91.5	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	平均正答率は、全国の平均正答率より低かった。 ○「ろ過の適切な操作方法」の問題の平均正答率は、全国や県の平均を約6ポイント上回っている。知識に関する問題は高い正答率を示した。 ●食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ問題では、県や国の平均正答率より低かった。物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩水に適應することに課題が見られた。	・学んだことを自然の事物・現象に適用できるようにするために、既習の内容や生活経験と関連付けて話し合う場を設定し、提示された自然の事物・現象を捉えることができるように指導していく。
エネルギー	平均正答率は、全国の平均正答率より高かった。 ○風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ問題では、県や全国の平均を10ポイント以上、上回っている。乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることが理解されていることがわかる。 ●回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる予想を基に、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ問題では、県や国の平均を上回ったものの課題が見られた。	・実験を行う際には、児童の予想を確かめるためには、どのように実験したらよいかを十分に話し合わせ、見通しを持たせながら実験が行えるようにしていく。 ・電流の流れ方については、ものづくりを取り入れながら回路について学ばせ、児童が興味・関心を持って学習に取り組めるようにする。
生命	平均正答率は、全国の平均正答率より高かった。 ○鳥の翼と人の腕のつくりについて、どのような視点でまとめた内容かを選ぶ問題や、示された模型の説明内容を選ぶ問題では、県や全国の平均を10ポイント前後上回っている。問題に適應する視点で捉えたり、人の腕が曲がる仕組みを模型で考えたりする力が付いていることがわかる。	・今後も学習で得た知識を実際の生活場面で活用できるように、図や模型を用いながら自分の体の骨や筋肉のつくりと働きについて説明したり、話し合ったりする活動を十分に行っていく。
地球	平均正答率は、全国の平均正答率より高かった。 ○「流れる水のはたらき」の問題に関して、全国や県の平均を6～9ポイント上回っている。知識に関する問題だけでなく活用問題においても高い正答率を示していることから、思考力の高まりがみられた。 ●大雨が降った後の地面の削られ方を選び、その理由を説明する問題では、全国の平均正答率に比べて高かったが、他の問題に比べて平均正答率が低かった。	・実験の後の考察や授業の振り返りで、自分の考えをノートにまとめる活動を今後も十分に時間をかけて行っていく。また、お互いの考えを発表した際には、比較・検討する活動も行っていく。

宇都宮市立西原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「自分には、よいところがあると思いますか」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」の質問についての肯定的回答の割合は県や国と比べ高かった。本校では毎日帰りの会で「元気・がんばり・思いやりタイム」という一日を振り返って友達の頑張りやよさを発表する活動や、毎時間の授業での振り返り活動など、児童が相互に良さを認め合ったり、児童の活動だけではない内面の頑張りや成長に教師が認めたり励ましたりする活動を行っている。今後も、自己肯定感を高め、自分の夢や目標をもち、努力していけるよう支援していく。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますか」の質問について肯定的回答の割合は県や国と比べ高かった。今後も、内容に応じてペア・グループなどの学び合いの場を設定し、児童が自分の考えを伝え、多様な感じ方考え方と出会い交流する学習形態を多く取り入れていく。

○「5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか」「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問についての肯定的回答の割合は、県や国と比べて高かった。本校では、家庭科や書写、生活科、総合的な学習の時間などの多くの授業でたくさんの地域のボランティアの方が教育活動に協力してくださっている。また、児童も地域の行事に参加し、その中で、地域の一員としての意識を育てている。今後も、地域の方と関わりを多くもち、地域の方の手を借りながら、教育活動を進めていきたい。

●「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」の質問についての肯定的回答の割合は、県の平均と比べて低かった。児童が、宿題や自主学習等で、進んで授業の予習・復習に取り組めるように、内容を検討して課題を出したり、家庭学習の時間が確保できるように家庭に呼びかけたりして、授業の予習・復習ができるよう支援していきたい。

○「算数の勉強は好きですか」「算数の内容はよく分かりますか」「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」の質問についての肯定的回答の割合は県や国と比べ高かった。普段の授業で行ってきた指導（ノート指導も含む）を今後も継続していきたい。

○その他の質問に対しても、「当てはまる」と肯定的な回答をした割合は、県や国と比べて全体的に高い傾向が見られた。

k

宇都宮市立西原小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自分の考えを整理しまとめる力を育成するノートづくり ・授業の振り返り活動の充実	ノート・板書・振り返りについて3年間校内研修を行ってきた。特に、自分の考えをノートにまとめさせ、お互いの考えを比較分類して学習課題を解決するような流れの授業を行ってきた。また、板書や授業の振り返りについても力を入れて研修を行ってきた。	算数Bの記述式の問題の平均正答率は、全国と比べて高かった。しかし、国語の「書くこと」に関する問題の平均正答率は、全国に比べ低い結果となり、課題があった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の「書くこと」に関する問題の平均正答率は、全国に比べ低かった。	各教科の授業で、自分の考えや振り返りをノートにまとめる活動を引き続き行っていく。	教科書の「文章や教科書の付録「言葉の世界（文章の種類と特徴、書く際の留意点）」と全体を確認した後、文章を書かせる。また、友達とお互いの文章を読み合う時にも教科書の文や付録「言葉の世界」を確認させるなど、文章を書く活動を丁寧に指導する。